



みみ おと きこ
耳で音が聞こえるのはなぜ

くうき のふるえが、みみ から のう につた
空気のふるえが、耳から脳に伝えられるため

ふつう、わたしたちが聞いている音は、音を出しているもののふるえが、空気などを伝
わって、耳から入ってきて鼓膜をふるわせ、それが耳のおくの神経に伝えられ、脳に伝え
られて、聞こえていることが、音として感じられるのです。

みみ おと きこ
耳で音が聞こえるしくみは

耳は、外のほうから外耳・中耳・内耳という、3つの部分に分けられます。耳の穴の入り
口から鼓膜までを外耳、鼓膜のおくを中耳とよんでいます。そして、中耳のさらにおく
には、中に液体の入った、うずを巻いた管が
あり、これが内耳です。内耳は、カタツムリ
のからそっくりの形をしています。

小鳥が近くで「ピピピ」と鳴くと、その声
のふるえが、空気を伝わって耳から入り、鼓
膜をふるわせます。鼓膜のふるえは中耳から
内耳に伝わって、内耳の中の液体をふるわせ
ます。この液体のふるえが、内耳の感覚細胞
というものに伝わり、そこから神経に伝えら
れて、脳に信号が送られ、小鳥の声が「ピピ
ピ」と聞こえたと感じるのです。

(監修・保志 宏)

